

ピアホームだより

2010. 9. 10

サービス管理責任者研修に参加して
—利用者の立場に立つとは—

先日のサービス管理責任者研修の演習で、我が班は、サービス管理責任者とは応援団長という意見にまとまり、私が発表する羽目になりました。何を応援するかといえば、利用者の夢である。—とニーズという言葉を取って避け、専門家ぶらず、利用者と同じ目線を意識する表現となりました。

では、彼らの夢の可能性は？

応援する者にとって、社会的な経験が少ない彼らの夢は現実離れしていないのかとの疑問によくぶつかります。

ここで、利用者の立場に立つということの真価が問われるように思います。

ストレングスマodel・エンパワーメント・自己決定

専門家には、利用者の言葉からその思いを汲み、一歩でも実現に近づけるアプローチの姿勢が問われているのではと思います。

逆に、利用者は、自らの思いを表現することができないことも多々あります。だからといって彼らに夢がないと決めつけるわけにはいきません。専門家として、ニーズ(夢)を引き出す力が望まれると思われます。

中々見えてこないニーズというのは、単に話を聞くだけでなく、どのようにサポートし、促し、語らせていくかが問われるのではないのでしょうか。

我々が見ているものは、利用者のほんの一部かもしれません。利用者のおかれた環境・行動など総合的な情報源として、またこれまでのライフヒストリーを把握して利用者の本当の気持ちを捉える必要があります。

しかし、過ぎたるは及ばざるがごとし、利用者本人ではなく、回りの都合にならないように常に心していくことが肝心です。

利用者の目線で書く個別支援計画は、利用者の言葉—1人称で書くことができるようになるでしょう。

9月の行事

<9月6日>区の監査

<9月18日>家コープフェスティバル

<9月27日>ピアホームⅡミーティング

<9月30日>日帰り旅行

新入居者紹介

中山鐘一

始めまして、中山と申します。

このピアホームに来てから約3ヶ月経ちます。病棟生活とは大いに違い、解放感に満ちあふれています。自分の病名は統合失調症です。この病気は、日本でも言われているように、100人に1人の確率で罹る病気だそうです。詳しく言えば切りがないので、この病名については本で読むか専門家に聞いてください。

自分の場合、今回入院になったのは複数の理由が重なったためです。具体的には、次回に機会があればその時に話をしたいです。

今回はこの辺で——。

後は、ピアホームのみなさん宜しく。

以上。